

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏名 孫華龍

1. 研究の背景と目的

心身症では体の症状が認められるが、その発症や経過に対人関係などの問題も含んだ心理社会的ストレスが関与することが認められている。交流分析法は自己啓発や対人関係改善の手段として活用され、心身医学的治療の一つになっている。東大式エゴグラム(Tokyo University Egogram, TEG)は、交流分析を基に開発された、高い信頼性と妥当性をもった質問紙エゴグラムである。TEG が発刊され、今日まで臨床を始めとする様々な場面で用いられてきた。これまで中国において、Egogram は存在していない。そして、新版 TEG が作成されたのと同時に、新版 TEG 作成時に使用されたオリジナル項目を用いて、東大式エゴグラムの中国語版を作成した。エゴグラムを中国に導入し、新版 TEG の中国語版の信頼性と妥当性を検討することが、この研究の目的である。

2. 方法と結果

まず、115 項目の質問によって構成されていた新版 TEG の原案の中国語訳を作成し、平成 11 年 2～10 月に、中国と日本で、一般健常中国人 419 名に調査票への記入を依頼し、359 名より有効回答が得られた (85. 7%)。内訳は、男性 208 名、女性 151 名であった。SCL-90-R (Symptom Checklist-90-Revised) の中国語版は新版 TEG 中国語版の併存的妥当性を検定するため、並行テストとして用いた。

TEG の CP、NP、A、FC、AC の 5 下位尺度に関しては、各下位尺度とも、item-remainder test を繰り返し、相関の低いものから順に削除していき、最終的に、20 項目から 10 項目を抽出し、各 10 項目からなる 5 下位尺度を作成した。

信頼性の検討は以下の 2 通りで行った。5 尺度の Cronbach の α 係数 (内的整合性を表す信頼性係数のひとつ) は、0.60～0.76 と十分に高い値が得られた。さらに、各下位尺度を潜在変数 (構成概念)、各項目を観測変数とみなし、共分散構造分析の下位モデルである測定方程式モデルによる解析を行い、各尺度とも、モデルのあてはまりの良さの指標となる GFI(Goodness of Fit Index 適合度指標)が 0.90～0.97 と十分に高い値が得られ、十分な信頼性を有することが確認された。

5 下位尺度全体を潜在変数、各項目を観測変数とみなし、共分散構造分析の確認的因子分析を用いて、構成概念妥当性の検討を行い、GFIは0.90となり、新版TEG中国語版の構成概念妥当性が認められた。

併存的妥当性の検討としては、TEGの各下位尺度を説明変数、SCL-90-Rの9下位尺度と全体症状苦痛指数(GSI)を目的変数とみなし、2つの質問紙の関連をStepwise法により重回帰分析を用いて検討した。CP、ACは、それぞれ厳格で批判的な傾向と、周囲に気を遣い劣等感に陥りやすい傾向を意味し、その結果は精神神経症状が多くなることが予想される。SCL-90-R中国語版の多数の尺度とGSIは、新版TEG中国語版のCP、AC尺度と有意に強い正の相関を示し($P<0.01-0.001$)、新版TEG中国語版の併存的妥当性が支持された。

弁別的妥当性の検討としては、年齢・教育・職業の各階層、慢性B型肝炎、在日中国人のデータに基づいて、T-TESTと多重比較分析を行い、ego statesの差が見られ、新版TEG中国語版の弁別的妥当性を確認した。

新版TEGの中国語版の標準化を行い、各尺度の男女別平均値および標準偏差が得られ、各尺度に男女における得点分布が異なるため、相対累積度数からパーセンタイル値を求め、男女別の得点配置図を作成した。挙げられた一般健常人と精神心身疾患患者のエゴグラム・パターンの例は新版TEG中国語版が日本語版のような有用性があると示唆される。

以上、本論文では、新版TEGの中国語版を作成し、十分に高い信頼性と妥当性を確認した。一般健常人と精神心身疾患患者のエゴグラム・パターンの例より新版TEG中国語版が日本語版のような有用性が見られた。本研究では、共分散構造分析を用いて、中国において初めてのEgogramの質問紙を開発し、中国において心身医学の発展およびTEGの国際化をめざして民族的比較研究に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。